

令和7年度の活動報告

1. 各種協議会の開催概要
2. まるごとまちごとハザードマップ
3. 住民参加型の研修会、勉強会の取組支援
4. 市町村の取組内容



水防災意識社会
再構築ビジョン

1. 各種協議会の開催概要

■行政ワーキンググループの開催

実施内容

- 行政ワーキンググループ(京都府域)を上流域流域センターで開催しました。
- 令和6年度の活動内容や取組状況を共有するとともに、各機関からの情報提供を行いました。
- 令和7年度の重点取組を「要配慮者利用施設における避難訓練の実施」とすることで認識共有を図りました。

会議名	開催場所	開催日
行政ワーキング グループ(京都府域)	上流域流域センター	令和7年5月8日(木)



◆議題

- 淀川管内水害に強い地域づくり協議会
 - ①協議会の概要…………… 資料1
 - ②令和6年度の活動報告…………… 資料2
 - ③減災に向けた取組状況の共有…………… 資料3
- 自然災害伝承碑の取組状況
 - ・自然災害伝承碑の取組状況報告…………… 資料4
- 令和7年度の重点取組
 - ・要配慮者利用施設における避難訓練の実施…………… 資料5
- 情報提供
 - ①気象台からの情報提供…………… 資料6
 - ②京都府からの情報提供…………… 資料7
 - ③国交省からの情報提供…………… 資料8
- 事務局からのお知らせ…………… 資料9
 - ①首長会議の開催に向けて
 - ②流域タイムラインの更新
 - ③令和6年度の住民意識調査結果の共有
 - ④住民参加型取組施策への支援内容
 - ⑤災害対応事例集の共有
- 今後の予定…………… 資料10
 - ・協議会関係

主な質問・意見

○要配慮者利用施設における避難訓練の実施に関しては、危機管理部局と保健福祉部局が連携して施設に働きかけることにより、施設側の危機意識が高まり、訓練の実施率向上につながっているとの意見があった。

→今後も部局間の連携を強化し、施設への継続的な周知・働きかけを行うことが有効であることを確認した。

1. 各種協議会の開催概要

■ 首長会議の開催

実施内容

- 首長会議(京都府域)を京都府庁職員福利厚生センターで開催しました。
- 要配慮者利用施設における避難対策について、危機管理部局と保健福祉部局の連携による取組を踏まえた意見交換を実施しました。
- 訓練の実施促進や、防災・気象情報の分かりやすい共有の重要性について確認しました。

◆ 議題

- (1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について
- (2) 自然災害伝承碑の取組状況報告
- (3) 令和7年度の重点取組
- (4) 意見交換
- (5) 今後の予定

意見交換における首長のご発言

- ・中学生と保護者向けに防災シンポジウムや避難所開設訓練等を実施し、保護者や地域の方々も巻き込んだ啓発事業を継続する。(宇治市)
- ・まるとまちごとハザードマップの設置、防災学習会の開催、自然災害伝承碑登録を実施した。(城陽市)
- ・ワンコイン浸水センサの実証に参画しており、今後の拡充を予定している。ハザードマップを改定して配布した。(長岡京市)
- ・防災出前講座、ヘリ離着陸訓練を実施し、トイレカーを導入した。(八幡市)
- ・まるとまちごとハザードマップ設置や出前講座を継続する。(京田辺市)
- ・ワンコイン浸水センサの拡充を予定している。内水対策の体制整備、自然災害伝承碑登録等多面的に防災強化を進める予定である。(南丹市)
- ・多言語対応の防災マップを改定した。内水排除施設工事が完了した。防災関連工事を継続予定である。(木津川市)
- ・防災伝道師養成講座で他の自治体と情報共有を推進する。(大山崎町)
- ・まるとまちごとハザードマップの設置や出前講座を実施した。船着き場を賑わい拠点、水防防災活動の拠点とする予定である。(久御山町)
- ・安心・安全推進課を設置した。自然災害伝承碑の登録を継続する。要配慮者利用施設で福祉部局、防災部局による訓練指導を実施予定である。(井手町)
- ・語り部講演会を開催した。災害時防災応援協定締結を継続する。(宇治田原町)
- ・まるとまちごとハザードマップを設置した。自主防災組織と連携した訓練の実施を継続する。(笠置町)
- ・住民ワークショップを開催し、老朽化橋梁架け替え、防災パトロールを実施した。防災マップ更新やドローン活用拡大を実施予定である。(和束町)
- ・自主防災組織の支援、マイ防災マップ作成、防災情報の多言語対応、公式LINE活用、個別避難計画作成支援を継続実施する。(精華町)
- ・防災フェスタを開催した。笹瀬橋の架け替えや自然災害伝承碑の登録、モニュメント設置を実施予定である。(南山城村)

会議名	開催場所	開催日
首長会議 (京都府域)	京都府庁 職員福利厚生 センター	令和7年5月21日 (水)



松村 宇治市長



奥田 城陽市長



中小路 長岡京市長



川田 八幡市長



上村 京田辺市長



西村 南丹市長



谷口 木津川市長



前川 大山崎町長



信貴 久御山町長



西島 井手町長



勝谷 宇治田原町長



山本 笠置町長



馬場 和束町長



杉浦 精華町長



平沼 南山城村長



淀川 河川事務所長

1. 各種協議会の開催概要

■ブロック別会議の開催

実施内容

- ブロック別会議を、京都府域：桂川、宇治川、木津川中流、木津川下流の各ブロックで開催しました。
- 令和7年度のソフト対策の実施予定について、要配慮者利用施設における避難訓練を中心とした取組状況や、部局間連携に関する意見交換を行いました。

会議名	開催場所	開催日
桂川ブロック	京都府庁3号館	令和7年 10月8日(水)
宇治川ブロック	宇治田原町役場	令和7年 9月3日(水)
木津川 中流ブロック	南山城村役場	令和7年 10月2日(木)
木津川 下流ブロック	精華町立図書館	令和7年 9月10日(水)



◆議題

1. 今年度のソフト対策の取組内容等の確認
 - (1)重点取組の実施予定の確認
(重点取組：要配慮者利用施設における避難訓練の実施)
 - (2)令和6年度 水害に対する意識調査結果
(推進する6項目の取組に関して)
 - (3)令和7年度の取組内容および事務局への支援希望の確認
2. 宇治川・木津川・桂川の減災に係る取組方針の改訂に向けて
 - (1)宇治川・木津川・桂川の減災に係る取組方針の改訂に向けて
 - (2)取組一覧(第3期の実施予定)
3. 情報提供(住民向けワークショップの支援)
 - (1)マイ・タイムラインの作成手順書 水害編(案)自治体職員向け
 - (2)マイ防災マップの作成手順書 水害編(案)自治体職員向け
 - (3)コミュニティタイムラインの作成手順書 水害編(案)自治体職員向け
4. その他

市町村からの主な意見

- ・ 要配慮者利用施設における避難訓練について、福祉部局と防災部局の連携による働きかけが実施率の向上につながっており、引き続き部局間連携を強化していく必要がある。
- ・ 訓練や計画作成が未実施の施設に対しては、文書による依頼や個別説明、研修会・ワークショップ等を通じた丁寧な周知が有効である。
- ・ 自治体職員や住民の防災意識向上のため、勉強会や出前講座などの継続的な取組に加え、国・府による情報提供や助言を引き続き求めたい。

2. まるごとまちごとハザードマップ

■まるごとまちごとハザードマップの設置状況

実施内容

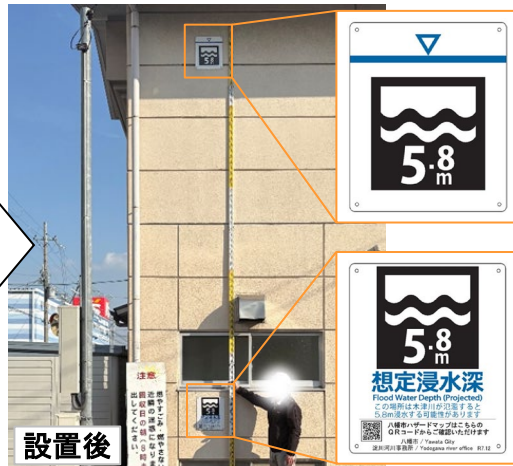
- 流域市町村の要望を踏まえて、多くの住民に関心を持ってもらえるよう、公共施設(集会所、公園、学校、消防署、駅等)や周辺の電柱に看板を設置しました。
- 令和7年度は、通常版を4市町計36箇所を設置しました。
(電柱や歩道橋をラッピングする高度化の取組はありません)

【通常版】

城陽市消防本部(城陽市)



都集会所(八幡市)



【高度化】 参考:木津川市R5年度事例

上粕小学校付近(木津川市)



令和7年度まるごとまちごと ハザードマップ(通常版)の設置状況

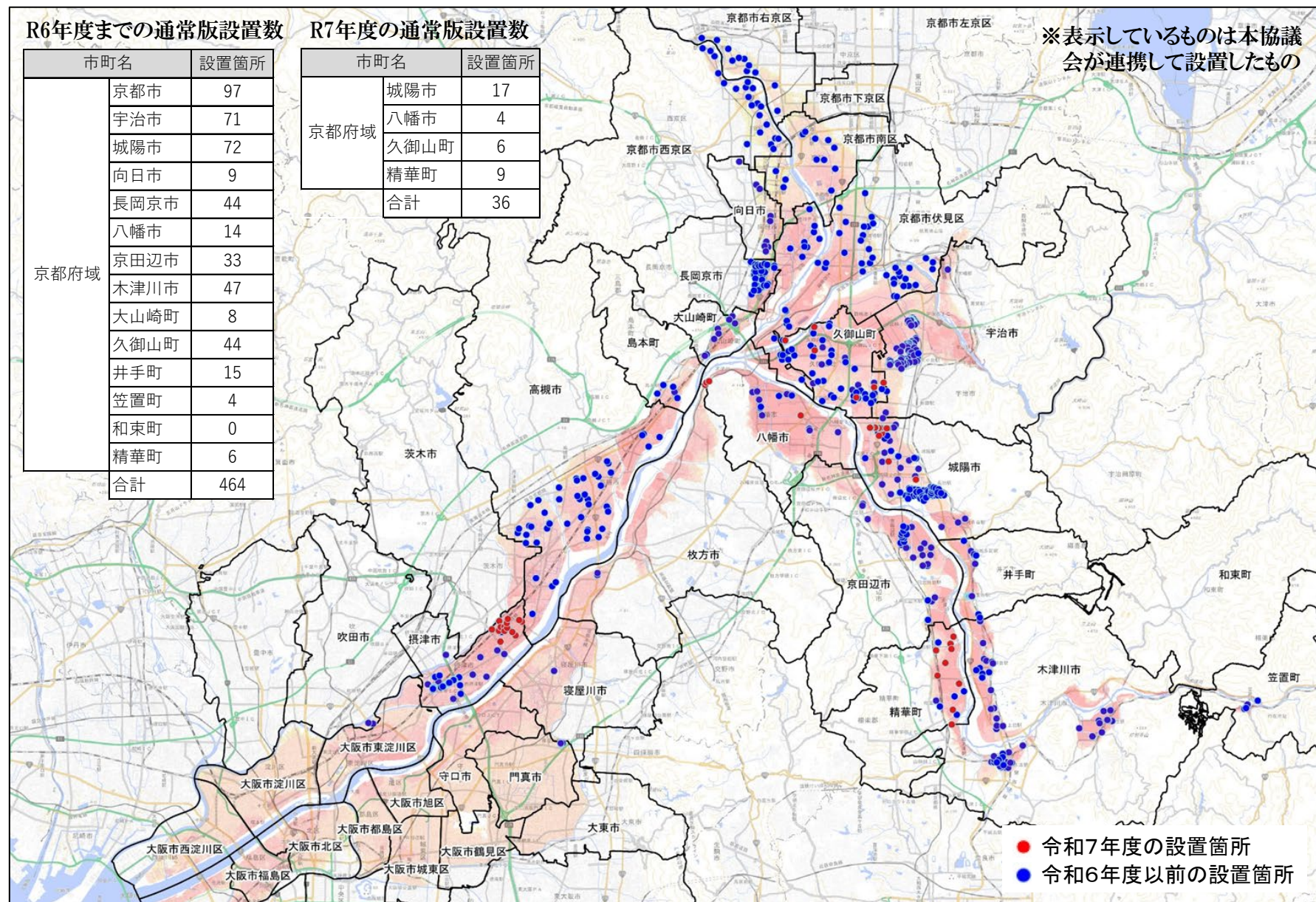
市町名		設置箇所
京都府域	城陽市	17
	八幡市	4
	久御山町	6
	精華町	9
合計		36

令和7年度まるごとまちごと ハザードマップ(高度化)の設置状況

R7年度は
京都府域での
新規設置無し

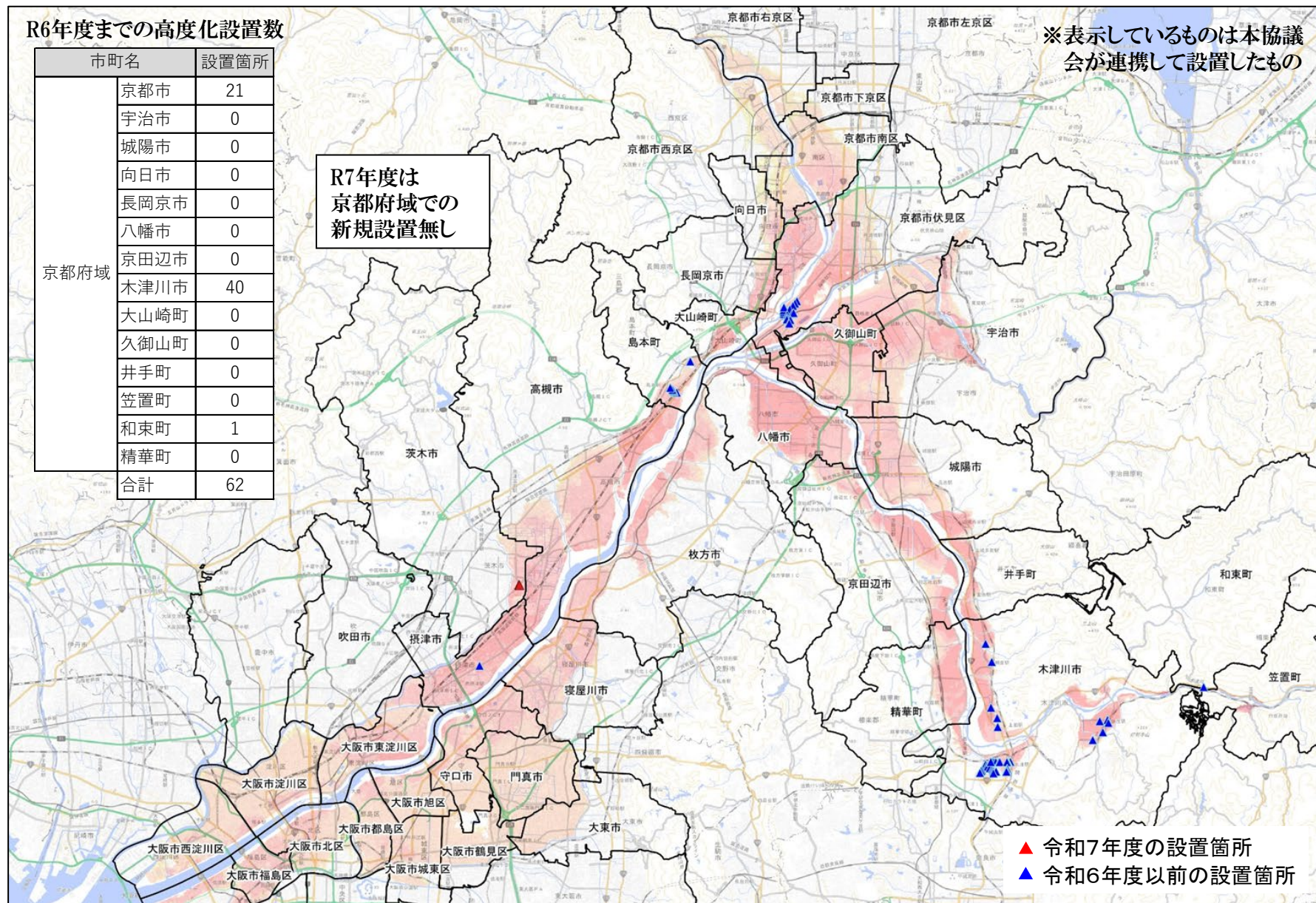
2. まるごとまちごとハザードマップ

■まるごとまちごとハザードマップ(通常版)の設置状況



2. まるごとまちごとハザードマップ

■まるごとまちごとハザードマップ(高度化)の設置状況



3. 住民参加型の研修会、勉強会の取組支援

■マイ・タイムラインの作成支援

実施内容

●水害や避難に関する基礎知識の向上を目的として、住民参加型の研修会や勉強会の支援を行いました。具体的には、ワークショップ形式でのマイ・タイムライン作成の説明資料作成や、資料説明も含めた運営補助を実施しました。

【ワークショップ 一覧】

項 目	研修会・勉強会名	支援概要
1.マイ・タイムラインの作成支援（京田辺市）	令和7年度第1回京田辺市防災士研修「マイ・タイムライン作成」	資料作成、説明、演習補助



京田辺市ワークショップ(令和7年6月24日実施)

【ワークショップ 内容】

STEP①近年の気象傾向とマイ・タイムラインの紹介
近年の気象の傾向と水害事例/マイ・タイムラインとは/マイ・タイムライン検討ツール『逃げキッド』の中身の確認

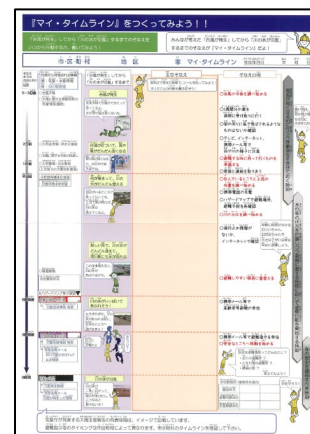
STEP②地域の水害リスクの確認
淀川管内で起きた過去の風水害/水害の種類について/ハザードマップの見方/自宅の水害リスクと家庭の状況、避難先までの移動手段・移動時間の記入

STEP③災害情報と避難行動の確認
「台風が発生」してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう/備えを考えよう/避難するときのポイント

STEP④マイ・タイムラインの作成
逃げキッド『マイ・タイムライン』をつくってみよう！！の説明/マイ・タイムラインの作成



発表資料例:マイ・タイムラインの作成



使用したツール「逃げキッド」

3. 住民参加型の研修会、勉強会の取組支援

■要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会

实施内容

- 要配慮者利用施設の避難訓練実施の促進に向けた取組として講習会を開催しました。
- 講習会では、防災気象情報の入手や避難確保計画に基づく訓練の手法に関する説明を行うとともに、施設タイムラインの作成を通じた意見交換により参加者の理解促進を図りました。

【背景と経緯】 ■ 水防法および土砂災害防止法の改正

- ・洪水浸水想定区域内の要配慮者利用施設について、**避難確保計画の策定及び訓練の実施が義務化**（H29.6）
- ・市町村長への**訓練実施の報告義務化**や避難確保計画・避難訓練に対する**市町村長の助言・勧告**の追加(R3.7)

■ R4・5年度における重点取組

要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施

- 目標：避難確保計画の作成率100%の達成、避難訓練の実施

京都府各機関の令和5年度取組状況調査結果(平均値)

- ・避難確保計画の作成：94% ・避難訓練の実施：**62%**
(訓練の実施が進んでいない)

■R6年度における重点取組

要配慮者利用施設における避難訓練の実施

京都府各機関の令和6年度取組状況調査結果(平均値)

- ・避難確保計画の作成：92% ・避難訓練の実施：**66%**
(前年度から若干の増加ではあるがまだ実施率は全体の2/3)

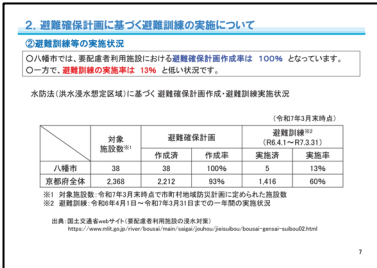
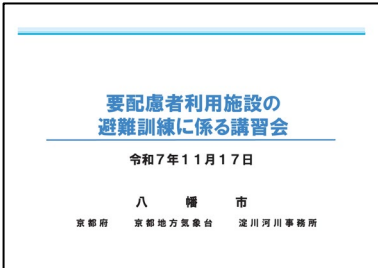
■R7年度における重点取組

要配慮者利用施設における避難訓練の実施

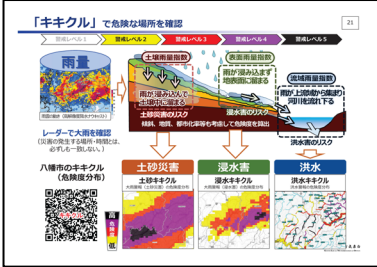
「水ビジョンに基づく宇治川・木津川・桂川の減災に係る取組方針」における目標最終年度に該当するため、**目標達成に向けた継続的な実施率の向上**を目指す。

【講習会 内容】

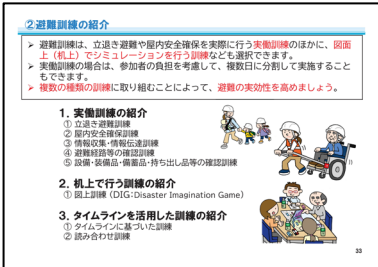
① 避難確保計画に基づく避難訓練の実施について（自治体）



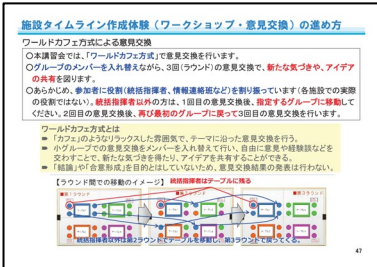
② 防災気象情報について（京都地方気象台）



③ 日頃からの備え (京都府、淀川河川事務所)



④ 施設タイムラインの作成 (ワークショップ、意見交換)



3. 住民参加型の研修会、勉強会の取組支援

■要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会

【講習会 一覧】

実施自治体	日時	参加施設数（人数）
八幡市	令和7年11月17日（月） 14:00～16:00	29施設（32人）
木津川市	令和7年11月27日（木） 14:00～16:00	16施設（29人）
城陽市	令和8年1月15日（木） 14:00～16:00	32施設（37人）

【各機関からの説明】



市から講習会の目的について説明（八幡市）



気象台から防災気象情報について説明（木津川市）



河川事務所から避難訓練の事例について説明（城陽市）



事務局から施設タイムライン作成について説明（城陽市）



防災マップの確認（八幡市）

【ワークショップの様子】



タイムラインの作成（木津川市）



タイムラインの作成（城陽市）

作成した
施設タイムライン▶



【参加者の感想（アンケート結果より）】

- ・ 情報収集や訓練の大切さを理解できた。
- ・ 火災だけでなく、水害対応の訓練の必要性を実感した。
- ・ 施設の場所や種類によって避難方法が違うことがわかった。
- ・ 同じ地域の施設の方と訓練の問題点を共有でき、自施設にあてはめて考えられたことがとても良かった。
- ・ ワークショップにより色々な施設の方の意見がきけて良かった。
- ・ 改めて自施設の有事の際の行動について考えることができた。
- ・ 自施設の避難確保計画の再検討の必要性を感じたので見直したい。
- ・ 今回の講習会をヒントにして自施設で訓練を実施したい。

4. 市町村の取組内容



水防災意識社会
再構築ビジョン

目次

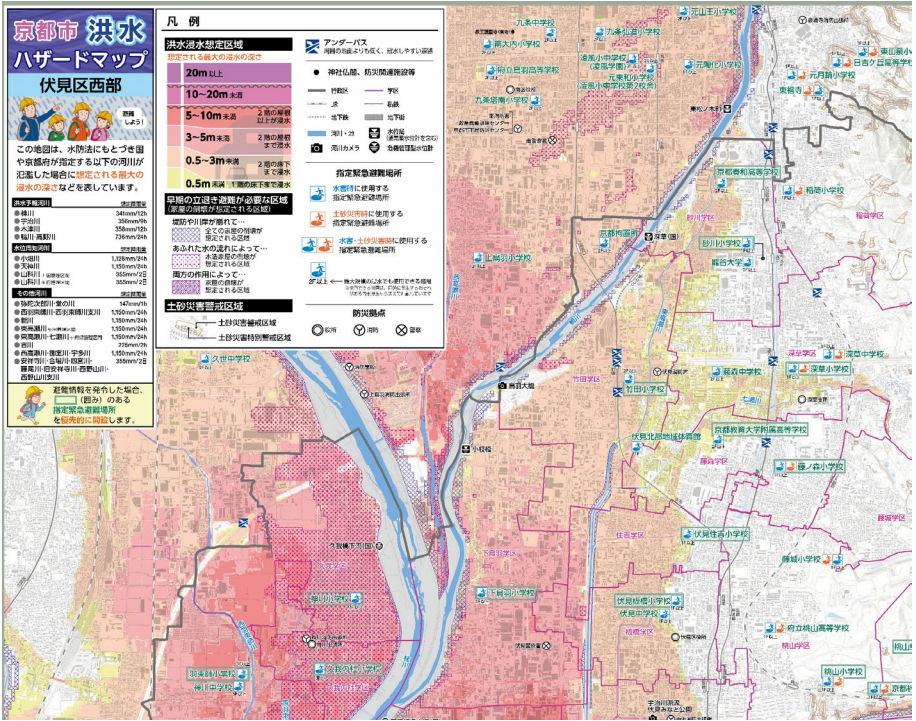
京都市（洪水・内水ハザードマップの作成）	12
宇治市（防災シンポジウムの開催、継続的な取組）	13
亀岡市（亀岡市防災士養成事業の実施、亀岡市こども防災士養成事業の実施、かめおか防災士ネットワークとは）	14
城陽市（出前講座・防災学習会等、まるごとまちごとハザードマップ、要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会）	17
向日市（トイレカーの導入、出前授業の実施）	20
長岡京市（雨水監視システムの整備、犬川第二排水区浸水対策事業）	22
八幡市（浸水想定区域内の要配慮者施設を対象とした避難訓練に係る講習会）	24
京田辺市（京田辺市防災訓練の実施、出前講座等職員派遣による防災意識の啓発・向上）	25
南丹市（住民主体の避難行動支援体制の推進）	27
木津川市（要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会）	28
大山崎町（大山崎町防災ハザードマップの更新）	29
久御山町（まるごとまちごとハザードマップの設置、出前講座の実施）	30
井手町（令和7年度井手町防災訓練の実施（水害対応））	31
宇治田原町（避難所の備蓄資機材充実、総合防災訓練、災害協定、避難所HUG訓練）	33
笠置町（防災パトロールの実施、町内自主防災組織と笠置町の共催による防災訓練の実施）	34
和束町（ふるさとレスキューの立ち上げ、和束町防災パトロール、防災行政無線更新工事）	35
精華町（「マイ防災マップ」の作成、まるごとまちごとハザードマップ）	36
南山城村（各種イベントを通じた防災意識社会の醸成）	38

京都市の取組状況について

■洪水・内水ハザードマップの作成

活動報告

- 中小河川の浸水想定区域を反映。洪水ハザードマップに加え、内水ハザードマップも新たに作成。
新たな防災気象情報に対応させ、地図上に表示の対象物も拡充。
- Web版ハザードマップ(京都市防災情報マップ)もリニューアル。
(異なる災害の重ね合わせ機能、印刷機能(マイハザードマップの作成)、スマートフォン版の実装)



京都市洪水ハザードマップ



web版ハザードマップ(京都市防災情報マップ)

宇治市の取組状況について

■防災シンポジウムの開催

- 若年層を中心とした市民の防災意識の高揚と、地域防災力の向上を図ることを目的に「災害の教訓を踏まえた避難所環境の整備について」をテーマとした防災シンポジウムを、市立宇治中学校の体育館で開催した。
- 第1部の講演（講師：京都文教大学教授・澤達大氏）では、過去の災害を参考に、中学校が避難所となった場合に起こることや、自分たちができることを考えた。また、被災地支援に従事した市職員との質疑応答を通じて、被災地での業務や避難所の状況について理解を深めた。
- 第2部では、実際に宇治市で災害が発生した想定で、生徒が中心となって避難所開設運営を行った。「宇治学」で事前に学んだことを生かして、段ボールベッドの組立などを体験した。
- 保護者や地域の方々にも参加いただいたことで、幅広い年代に対して、災害への備えの意識付けを行うことができた。



■継続的な取組

- 防災訓練の実施（約1,000人が参加）
- 防災学習（宇治学）への取組（10回・約1,100人が参加）
- 防災出前講座（81回・約4,100人が参加）
- 自主防災組織への支援（22団体・自主防災組織育成事業補助金）

■亀岡市防災士養成事業の実施

活動報告

- 亀岡市では、地域住民の先頭に立つ防災スキルを持った市民防災リーダーを養成するため、京都府内の自治体として初めて日本防災士機構から研修実施機関としての認証を取得し、市独自で防災士資格取得者を増加させる「亀岡市防災士養成事業」を令和4年度から実施しております。
- 令和7年度については、募集開始と同時に、1週間余りで定員到達となりました。
- 事業を実施した結果、市内在住・在勤の防災士数について、事業実施前(令和3年度末時点)の57名から事業実施後(令和8年3月末時点)の323名まで増加させることができました。

令和7年度亀岡市防災士養成事業

実施日	令和7年11月8日(土)・9日(日)
場 所	亀岡市役所 市民ホール
参加者	・49名
内 容	・市独自の防災士養成プログラムを実施(講義+演習 計9講目) ・2日間のカリキュラム内で普通救命講習を実施



亀岡市の取組状況について(2/3)

■亀岡市こども防災士養成事業の実施

活動報告

- 亀岡市では、児童や生徒など、次代の地域防災を担う若年層の防災意識の向上を目指すことを目的として、令和4年度から「亀岡市こども防災士養成事業」を実施しております。
- 本事業では、主に小学生を対象として『まずは防災に興味を持っていただく』ことをテーマに、体験的なカリキュラムを設定することで、楽しみながら防災について学ぶ場を提供しています。令和7年度は親子ペアでの参加を条件として、20組限定で参加者を募ったところ、想定以上の申し込みがありました。

令和7年度こども防災士養成事業

実施日	令和7年9月27日(土) 9:30~16:30
実施場所	川の駅/亀岡水辺公園 (亀岡市千代川町今津大縄26-3)
参加者	小学2年生~6年生の児童と保護者 合計23組
実施内容	・冠水路歩行体験 ・防災キャンプ(炊飯体験) ・土砂災害模型の体験 ・ボーイスカウト体験(ロープワーク、応急担架) ・体験型防災クイズゲーム"防災クエスト"



亀岡市の取組状況について(3/3)

■かめおか防災士ネットワークとは

活動報告

- かめおか防災士ネットワークは、亀岡市在住・在勤・在学の防災士を対象に、定期的なフォローアップや防災士資格者同士の交流のなどを目的としています。また、ネットワークに登録した防災士は、自主防災会や亀岡市が主催する防災訓練や研修会などへの参加・運営協力を行っています。
- 令和7年12月6日、7日にフォローアップ研修会の一環として、「避難生活支援リーダー/サポーター研修会」を実施しました。本事業は内閣府主催、京都府・亀岡市共催により、京都府下では初めての開催となりました。近年、災害の激甚化・多発化により避難生活が長期化している背景から、被災者自らが避難生活の環境を改善するための方法をグループワークやシミュレーション訓練を通じて、学ぶことができました。一般公募により参加者を募り、市民の災害意識の高さを再認識しました。

防災士フォローアップ研修会(避難生活支援リーダー/サポーター研修会)

実施日	令和7年12月6日(土)、7日(日)
実施場所	亀岡市立城西小学校 体育館
参加者	受講者51名 (うち、ネットワーク加入者数24名) オブザーバー17名 (他市町村職員、大学教授、ボランティア団体など)
実施内容	＜カリキュラム＞ ・多様な被災者の理解とその配慮 ・避難所の課題と生活環境の整備 ・対人コミュニケーション ・運営の担い手との連携・協働の必要性



城陽市の取組状況について(1/3)

■出前講座、防災学習会等を実施

活動報告

- 市では、主に防災ブックを活用した出前講座や、地域の皆さまや福祉施設などのご要望に応じた防災学習会等を実施し、本市のおかれている地理的状況や、災害に対する備えなどについて、啓発活動に取り組んでいます。
- 令和7年度は、出前講座を3回、防災学習会を15回実施しました。



城陽市の取組状況について(2/3)

■まるごとまちごとハザードマップ(浸水深表示板)を新規に設置

活動報告

- 市内の浸水想定区域内にある指定緊急避難場所等への設置は完了していますが、各校区の自主防災組織に対し、地域における浸水深表示板の設置の希望をとり、令和7年度については、校区からの要望で13箇所、市管理施設4箇所に設置を行いました。
- 城陽市の設置箇所は計89箇所となりました。

古川小学校通学路
の設置状況(校区
からの要望)



今堀第1
幼児公園の
設置状況



消防本部の
設置状況



城陽市の取組状況について(3/3)

■要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会の実施

活動報告

● 洪水時の逃げ遅れによる人的被害ゼロの実現を目指すため、水防法及び土砂災害防止法で作成が義務付けられている避難確保計画に基づく避難訓練の実施や施設タイムラインの作成等に係る講習会を、要配慮者利用施設の所有者または管理者等に対し実施しました。

	詳 細
実施日及び場所	令和8年1月15日(木) 消防本部3階大会議室
参加者	要配慮者利用施設の所有者または管理者 32施設(37人)
内容	(1) 挨拶、はじめに (2) 避難確保計画に基づく避難訓練の実施について (3) 防災気象情報について (4) 日頃からの備え (5) 施設タイムラインの作成(ワークショップ、意見交換) (城陽市) (城陽市) (京都地方気象台) (京都府・淀川河川事務所) (城陽市・京都府・京都地方気象台・淀川河川事務所)



向日市の取組状況について (1/2)

■トイレカーの導入

活動報告

- 令和7年10月にトイレカーを導入しました。(大型・小型)
自然災害等の発生時に避難所の適切な運営・感染症対策を行うことを目的として、トイレ不足早期解消のために導入しました。
- 大型トイレカーは、内閣府災害対応車両登録制度「D-TRACE」に登録しています。



導入時期	場 所	内 容
令和7年10月	向日市	トイレカーを導入 ○簡易水洗、温水洗浄便座を装備 ○(大型) 個室数 4 室・バリアフリー用個室 1 室 ○(小型) 個室数 2 室 ○発災後、被災自治体のニーズに応じて、迅速に車両を提供できるように災害対応車両登録制度「D-TRACE」に登録(大型トイレカー)

活動の効果

- 災害時に快適にすぐに使用できる。
- 設置したい場所に移動して使用できる。
- 平時においては、市内イベント会場などに設置し市民の方にも使ってもらえる。

向日市の取組状況について (2/2)

■出前授業の実施

活動報告

- 市内の小学校及び中学校において、向日市の防災についての出前授業を行いました。

<出前授業参加人数>

令和7年	373名
令和6年	357名

出前授業(小学校)



出前授業(中学校)



向日市の防災について



長岡京市の取組状況について (2/2)

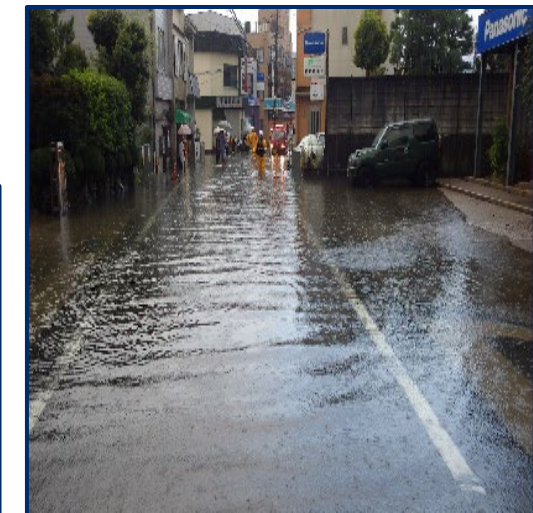
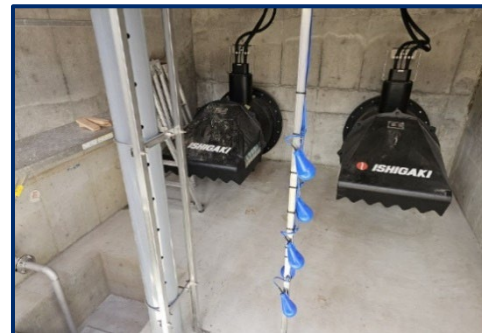
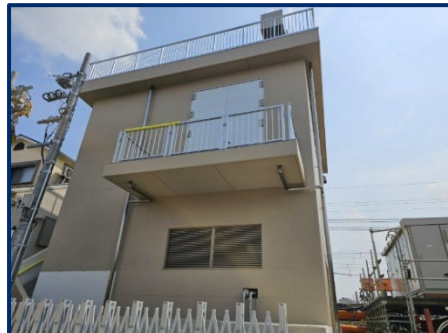
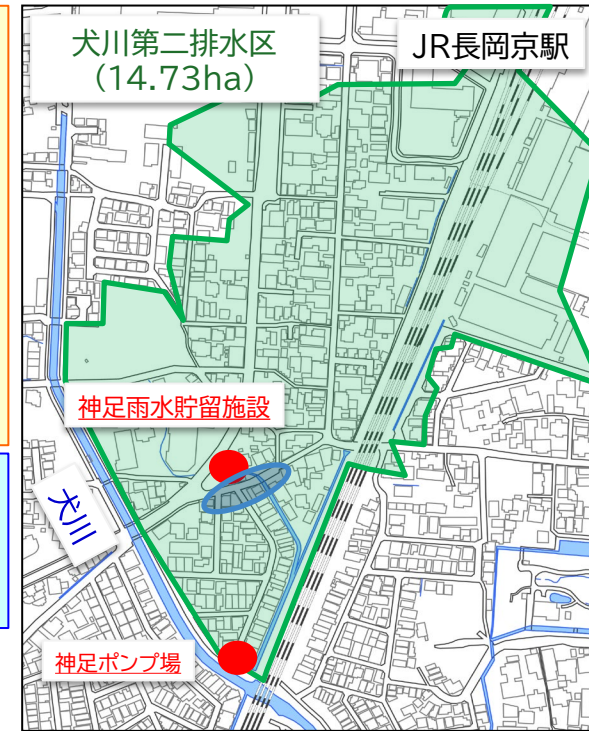
■犬川第二排水区浸水対策事業

活動報告

- 犬川第二排水区は、長岡京市内でも浸水被害の多い区域であり、防災ハザードマップ(令和7年公表)で内水氾濫が最も多い地区の一つとなっています。本事業は、犬川第二排水区の浸水対策事業として、神足雨水ポンプ場と神足雨水貯留施設を整備するものです。
- 神足雨水ポンプ場は、犬川第二排水区の雨水を一級河川へ放流するためのポンプ場であり、老朽化対策の更新事業に併せて、浸水対策として能力を向上させます。また、放流先の一級河川では放流制限があるため、適切な量の雨水を排水するため、京都府が実施する府道拡幅事業用地を活用し、道路地下に貯留施設を築造しています。

基本
事項等

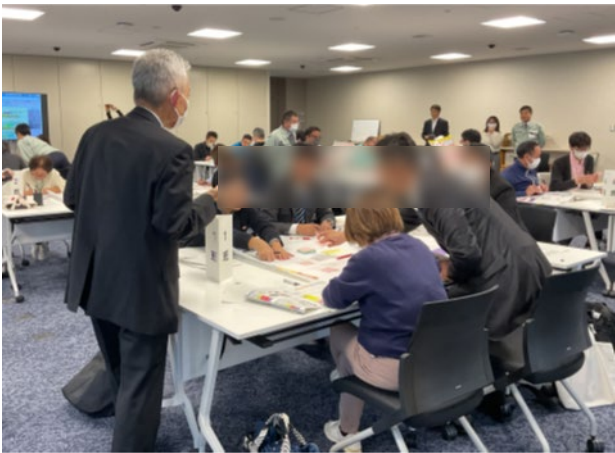
- 犬川第二排水区 14.73ha
- ポンプ場規格:1.0m³/秒(径450mm、径600mm)→2.2m³/秒(径700mm×2台)
- 貯留施設の貯留量:1169m³(Ⅰ期工事:817m³、Ⅱ期工事:352m³)
※Ⅰ期工事分については令和6年6月より供用開始、Ⅱ期工事はR8工事着手予定。



■浸水想定区域内の要配慮者施設を対象とした避難訓練に係る講習会

活動報告

- 淀川河川事務所、京都府砂防課のご支援を受け、避難訓練に係る講習会（各施設の避難行動タイムラインの作成）を行いました。



時 期	場 所	内 容
令和7年11月17日	八幡市役所本庁舎	○ 37施設中30施設の参加をいただき、全施設は、本講習会を参考にした図上訓練によりタイムラインを作成 ○ 不参加施設のうち、訓練報告未実施の5施設に赴き、本訓練資料を活用した講習を実施

活動の効果

- 他の施設の意見を参考に、自らの施設の特性に応じたタイムラインを作成
- 浸水想定区域内の要配慮者利用施設の訓練実施率100%を達成するとともに、令和8年度も訓練実施報告が逐次提出されている状況

■京田辺市防災訓練の実施

活動報告

- 市民の防災意識向上を目指した京田辺市防災訓練を令和7年11月24日(月・祝)に実施。
- 災害時協定締結先等の関係機関に出展等協力いただき、防災啓発展示ブースや体験ブース等を設置。
- 約1,200人が来場し、区・自治会・自主防災組織の計27地区が防災無線通信訓練や避難所資機材組立訓練等に参加



浸水歩行訓練
(淀川河川事務所
河川レンジャー)



京田辺市
展示ブース



消防ヘリ救出訓練
(京都市消防局)



避難所資機材
組立訓練

京田辺市の取組状況について(2/2)

■出前講座等職員派遣による防災意識の啓発・向上

活動報告

- 出前講座として市職員が講師となり、ハザードマップの説明等の防災に関する講座を行った。
- 地域の訓練等に市職員も参加し、防災資機材の展示等の防災に関する啓発を行った。
- 令和7年度は、市内12地域・団体に対して、計13回の講座を実施した。

○令和7年度の出前講座等

種別	回数	延べ参加人数
出前講座	11回	約200人
地域の訓練等	6回	約200人

地域の訓練

指定避難所まで避難訓練

避難所防災倉庫の説明
(市職員派遣)



出前講座

南丹市の取組状況について

■住民主体の避難行動支援体制の推進

報
告
動
画

●出前講座等における、コミュニティタイムライン及びパーソナルタイムラインの作成促進

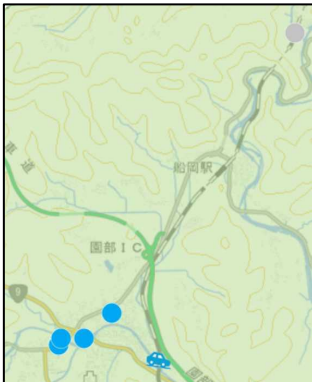
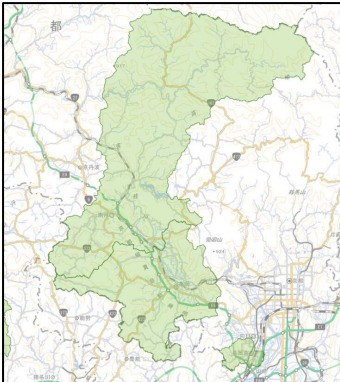
●ワンコイン浸水センサーの活用

期日	場 所	内 容
令和5年以降	南丹市役所等	・住民避難が円滑に行われることを目的に「コミュニティ及びパーソナルタイムライン」の作成及び活用を市民の皆様にご覧いただき、防災意識の高揚を図った。 ・ユーチューブ動画（QRコード）で、市民への共有を行い、タイムライン作成率の向上を図っている。 ・継続した自助共助を啓発し、水害の拡大防止に努める。
7年度以降	南丹市役所等	・ワンコイン浸水センサーを市内6箇所に設置し、道路の冠水状況の把握及び避難情報発令時の判断支援に活用している。



ユーチューブ動画

年平均8回出前講座を実施
聴講者約280名



市内6箇所に設置

木津川市の取組状況について

活動報告

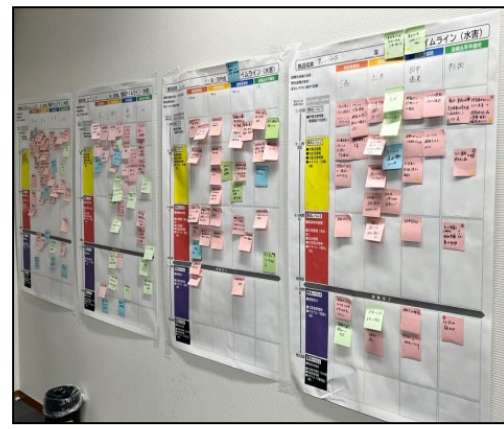
■要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会

- 淀川河川事務所、京都府建設交通部砂防課の支援を受け、要配慮者利用施設の避難訓練に係る講習会を行い、要配慮者利用施設の避難の実効性確保を図りました。

時 期	令和7年11月27日(木) 14:00 ～ 16:00
参加施設	15施設(26名)
実施項目	1 避難確保計画に基づく避難訓練の実施に関する説明 2 防災気象情報、日頃の備えに関する説明 3 施設タイムラインの作成、意見交換



施設タイムラインの作成、意見交換



作成した施設タイムライン

取組内容

- 参加者の所見
 - ・気づきがたくさんあり、大変勉強になった。
 - ・職員会議等でタイムラインの作成に取り組みたい。
- 今後の避難訓練の実施率向上が見込まれる。

■大山崎町防災ハザードマップの更新

活動報告

- 本町では、雨水浸水想定区域図の作成や中小河川の浸水想定区域図の追加、防災情報の更新に伴い、ハザードマップを更新しました。
- 更新に伴い、マイ・タイムラインのページを追加し、啓発・作成支援を実施していきます。



マイ・タイムライン

水害・土砂災害は、あらかじめ発生を予測できる災害です。災害時に起こりうる状況を想定し、「いつ」「だれが」「なにをするのか」を時系列に整理した自身の行動計画「マイ・タイムライン」を事前に検討しておくことが大切です。必要な情報とそれに応じた行動の時系列に整理しておくと、いざというときに余裕をもって対応することができます。ハザードマップを確認しながら作成してみましょう。

避難のタイミングを決めましょう

家族で避難に時間がかかる人（高齢者・障がいのある人など）が

☐ いる → レベル3
で避難

☐ いなし → レベル4
で避難

わが家の災害リスク
浸水想定

わが家の緊急避難場所

土砂災害

- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

家族の集合場所

マイ・タイムライン
年 月 日 作成

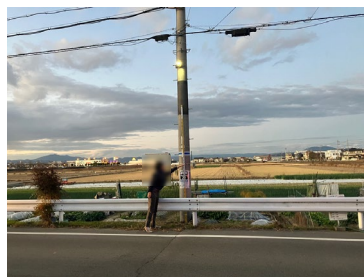
いつ	だれが	なにをするのか	※記入例	とるべき行動
周囲の状況 台風が発生 自分がかまう範囲を超えてくるとも 上流で雨が降れば川の水は増えるかも 台風が近づいて、雨や風が強くなる 雨雲集まって、川の水位が高くなる危険がある	警戒レベル1 早期注意情報 今後気象状況悪化のおそれ	大まかに決めるだけ 避難するつもり	○家系図の確認 ○最新の気象情報等入手する。 ○家族の行動予定確認 ○携帯電話の充電	●最新の気象情報等入手する。 ●非常持出袋など防災グッズの確認。
水防部隊水位到達 桂川（様） 2.80m 小泉川（松田橋） 1.30m 小泉川（大森野） 1.30m 氾濫注意水位到達 桂川（様） 3.80m 小泉川（松田橋） 1.90m 小泉川（大森野） 2.20m	警戒レベル2 注意報 気象状況悪化	避難前に確認 準備完了	○お持ち品の手配 ○避難方法を確認 ○貴重品の管理	●ハザードマップ等で避難行動を確認。
避難判断水位到達 桂川（様） 3.90m 小泉川（松田橋） 1.90m 小泉川（大森野） 2.20m	警戒レベル3 警報 災害のおそれあり	避難することには迷わずに決断 準備完了	○（高齢者や）避難先へ移動 ○近隣の車庫減速へ要請	●高齢者等は速やかに避難。 ●土砂災害警戒区域等や水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は、避難準備が数回以降避難開始。
氾濫危険水位到達 桂川（様） 4.00m 小泉川（松田橋） 2.30m 小泉川（大森野） 2.60m	警戒レベル4 危険警報 災害のおそれ高い	避難することには迷わずに決断 準備完了	○避難先へ移動完了 ○必ず避難する1台車を必ず手配 ○安全な部屋へ移動完了	●全員危険な区域から少しでも安全な場所に速やかに避難。
氾濫が発生	警戒レベル5 緊急安全確保 大雨特別警報 （気象庁が発令） すでに被害が発生している状況	ここまでに必ず避難を終える	浸水想定が3.0mを超える」ところは、事前に決めている避難場所へ移動	命を守るための最善の行動をとってください ●雨水避難など少しでも命が助かる避難行動をとる。

※緊急安全確保（いつかは）発生状況によって発令しないこともありますが

浸水したものの回復は早い場合もあり、冬などに制限なく帰宅して避難準備が必要となる場合は、早めに避難準備を整え、必要に応じて避難を開始してください。

■まるごとまちごとハザードマップの設置

- これまでと同様に自治会等の希望を募り、令和7年度は6箇所を設置を行った。
- 本町におけるまるごとまちごとハザードマップの設置数は累計で50箇所となった。



■出前講座の実施

- 小学生(4年生)への防災教育を目的として、住んでいる地域の特徴や過去に起きた災害の事例等を紹介し、防災への理解を深めた。
- 町で備蓄している段ボールベッドの組立てを体験することで避難所のイメージを膨らませた。



井手町の取組状況について(1/2)

■令和7年度井手町防災訓練の実施(水害対応)

活動報告

- 井手町では11月に令和7年度井手町防災訓練(水害対応)を実施しました。訓練では、住民の方が避難する際、令和6年度に更新したハザードマップを活用し、浸水が想定される危険な道を避けて避難するなど、実際の災害を想定した訓練を行いました。

浸水防御を想定した土のう作成



浸水時要救助者救出訓練(消防団)



井手町の取組状況について(2/2)

令和7年度井手町防災訓練の実施(水害対応)

活動報告

- 令和7年度に新たに整備したドローンやパーティションテント・簡易ベッドなどを活用した訓練も実施しました。新たに整備されたドローンは、土砂崩れの現場等、被害状況の調査などを想定しています。また、公的備蓄の基準見直しに伴い、新たに購入したパーティションテントや簡易ベッドを訓練にて使用。避難生活で実際に使用するテント類の設営イメージなどを把握していただきました。

ドローン飛行訓練(離陸時)



パーティションテント・簡易ベッドの設営訓練



宇治田原町の取組状況について

■避難所の備蓄資機材充実

報告活動

- 各避難所に備蓄倉庫を整備するとともに、資機材（パーティションテント、簡易ベッド、段ボールベッド、可搬型冷風機）を備蓄

■総合防災訓練

報告活動

- 〔時期〕令和7年10月26日（日）、〔場所〕宇治田原中央公園
- 防災機能を備えた宇治田原中央公園を会場に、自主防災会などの防災関係機関約400人が参加
- 避難所開設訓練では、避難所に備蓄し充実を図る資機材を活用

■災害協定

報告活動

- ハイアールジャパンホールディングス株式会社と「災害時における洗濯支援に関する協定」を締結
- 全国若手町村長会主導の「災害時の応援に関する協定」に参加

■避難所HUG訓練

報告活動

- 〔時期〕令和7年7月5日（土）、〔場所〕宇治田原町総合文化センター
- 一般財団法人消防防災科学センターの防災図上訓練指導員をファシリテーターに、町登録防災士、消防団、自主防災組織など約30人が参加

効果活動の

- 避難所の備蓄資機材充実により、大規模災害時における避難所の生活環境改善を図った。
- 防災訓練や災害協定を通じて、各防災関係機関との相互連携による防災力強化を進めた。
- 住民自らによる避難所設置・受入・運営の体験や訓練を通じて、住民の防災意識高揚に繋げた。



備蓄倉庫



災害協定



HUG訓練

笠置町の取組状況について

■防災パトロールの実施

活動報告

- 令和7年5月、町内にある複数の危険予想箇所を関係機関と合同で点検した。
- 危険予想箇所のうち、河川増水時に通行が困難となる有市潜没橋、同橋直近で最大想定侵水深20m超になる国道163号線（有市地区）は、水害発生の可能性が高いため、対策状況等の共有を行い、関係機関との連携の強化を図った。



■町内自主防災組織と 笠置町の共催による防災訓練の実施



- 令和7年11月、笠置町内で発足した自主防災組織と共催による防災訓練を実施した。
訓練は、
 - ・ 消火器使用方法の習熟
 - ・ 無線機を活用した情報伝達要領の習熟
 - ・ 運搬機材使用方法の習熟
 - ・ ハザードマップの確認方法
 等、水害、地震、火災等の様々な災害を想定した内容で行った。
- 自主防災組織と笠置町が共催で訓練を実施したことにより、地域と役場との連携の強化につなげることができた。

【自主防災組織発足：令和5年8月】

和束町の取組状況について

■ふるさとレスキューの立ち上げ

活動報告

- 令和7年度、京都府南部初のふるさとレスキューを（町内木屋地区）立ち上げました。
- 消防署から遠隔地にある中山間地において、災害時の救助者や傷病者発生、孤立に備えるため、また、集落の救助救急力を高め、安心安全な地域づくりを進めることを目的としています。



■和束町防災パトロール

活動報告

- 毎年6月に京都府や警察、消防等各関係機関の参加のもと、防災パトロールを実施しています。
- 災害時に各関係機関が連携して、適切な対応を図れるように、土砂災害警戒区域や、和束川の河床上昇による浸水被害想定のポイント検・確認や情報共有を行います。



■防災行政無線更新工事

活動報告

- 令和7年度、和束町防災行政無線の更新を行いました。
- 今回の更新により遠隔での放送予約やメール配信等の拡張機能の追加により、住民への的確な防災情報等の提供体制を確保し、住民が安心、安全に暮らせるようなまちづくりを推進していきます。
- また、和束町公式LINEも立ち上げ、防災・気象情報を配信しています。

精華町の取組状況について(1/2)

活動報告

■「マイ防災マップ」の作成

- 説明会・まち歩き
 - ・マイ防災マップの作成趣旨、活用方法等を説明
 - ・地域の自主防災会を中心に住んでいる地域の危険箇所確認を実施
- 「マイ・タイムライン」、「わが家の防災メモ」の書き込み欄等を裏面に記載
 - ・災害時の安全な避難のタイミングを確認
 - ・平時からの備えについて、非常用持ち出し品や備蓄品を掲載
 - ・災害時の安全な避難のタイミングに関する情報等について、二次元コードと併せて掲載

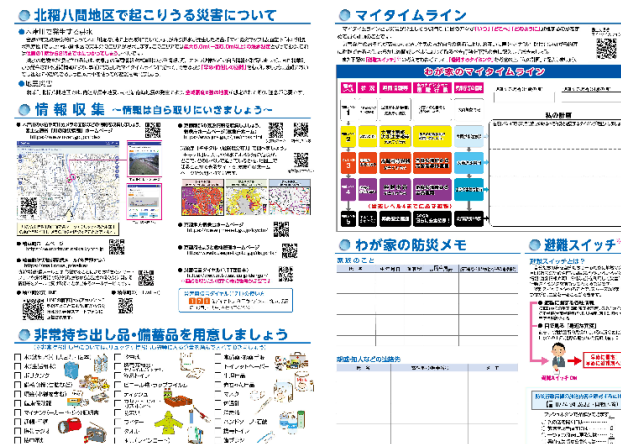
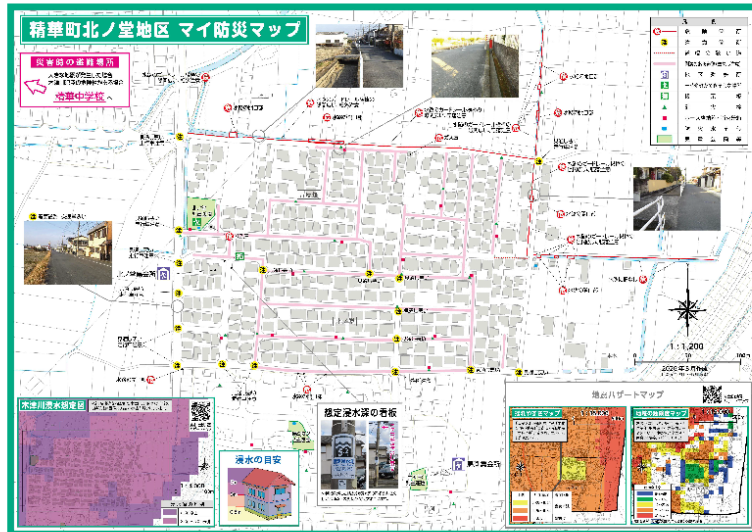
令和6年度までに作成済

13地区(浸水想定地区12地区、土砂災害警戒地区1地区)

令和7年度 実施地区

3地区(菅井、北ノ堂、北稻八間)

表面(地図面)



裏面(情報面)



精華町の取組状況について(2/2)

■まるごとまちごとハザードマップ

活動報告

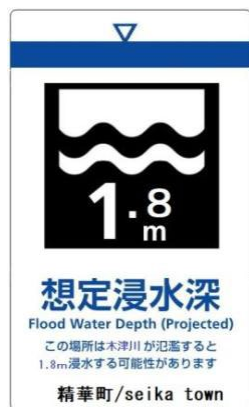
- 木津川浸水想定地域の行政区ごとに、浸水ハザードマップの更なる普及浸透、危機意識の醸成、避難所等の認知度等の向上のため、「マイ防災マップ」を作成するとともに「まるごとまちごとハザードマップ」の標識板設置を実施しました。
- 浸水想定地域のなかでも災害リスクの多い地域から順に設置し、対象地区の住民が目につきやすい地区集会所付近において設置しました。

令和6年度までに設置

6地区(祝園西一丁目、南、中、菱田、東、馬淵)

令和7年度に設置

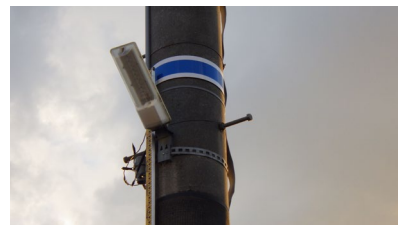
9地区(中久保田、滝ノ鼻、舟、僧坊、里、西北、北稻八間、北ノ堂、菅井)



設置見本



設置例



■各種イベントを通じた防災意識社会の醸成

活動報告

- 南山城村と自主防災組織、消防団が主催する「防災フェスタ」の開催による防災啓発
(2025年度は、京都府交通安全協会様と共催で実施)
- 社会福祉協議会で開催された「ご近所支え合い講座」での防災情報や対策の住民向け発信



- 様々な防災関係者や地域住民が防災学習や防災に関するイベントを通じて、それぞれの立場や役割、対応方法を学ぶことで自助の意識の構築に努めた。
- 防災フェスタでは、災害時にキッチンカーを避難所等へ配備すべく、キッチンカー団体である協定先と連携し、実働的内容で実施した。